

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 藤岡市立美九里西小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 375-0037  
群馬県藤岡市三本木769番地

E-mail [mikurinishi-es@fujjoka-school.gunma.jp](mailto:mikurinishi-es@fujjoka-school.gunma.jp)  
Website <http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010007>

幼児児童生徒数 男子 46名 女子 55名 合計 101名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、学校教育の基本目標を「心豊かで自ら学びを創造し、たくましく生きる児童の育成」とし、目指す児童像として「思いやりのある子」「たくましい子」「よく考える子」を掲げ、「思いやりのある子」「よく考える子」の育成にESDの活動を位置づけている。校区に世界遺産「富岡製糸場と絹遺産群」の一つである「高山社跡」を有する本校では、総合的な学習の時間における「高山社学」を柱にESDの活動を行っていくこととしている。

具体的には、3年生総合的な学習の時間における①身近な地域に関する学習、4年生総合の②「高山社学」に関わる活動、5年生総合の③福祉に関する学習、6年生総合の④地域の歴史や伝統文化に関する学習を行った。

### ① 身近な地域に関する学習：3年生総合「美九里地区について調べよう」

1. 校区の自然、歴史的建造物、商店、公共施設などについて、現地調査「まちたんけん」を数回にわたっておこない、新たな発見をすることができた。
2. 「美九里の自慢」というテーマで、探検結果を生かした意見交流をKJ法で行った。
3. 調べ学習を行い、「美九里西小マップ」にまとめ、互いに発表し合い、調べたことを交流し、分類することで、地域の特色に気づくことができた。

## ② 「高山社学」に係わる学習：4年生総合『郷土の誇り 高山社』

1. 課題設定の際には、グループで意見交流・分類し、イメージマップにまとめて追究したい課題について考えた。
2. 課題追究の活動では、高山社、富岡製糸場、日本絹の里、地域の養蚕農家への見学や聞き取り調査、座繰り等の体験、高山社情報館や世界遺産キャラバンと連携した授業を行い、児童一人一人が体験学習や現地調査をふまえて主体的に課題を追究した。
3. まとめの活動では、人々に高山社の素晴らしさを発信するリーフレットを作成し、関係機関に配布した。

## ③ 福祉に関する学習：5年生総合「地域の人々とつながり支え合う社会」

1. 福祉に関する体験活動（アイマスク体験、車椅子体験、高齢者体験など）を通して気づいたことを、「ビフォーアフター」等の方法で、グループやクラスで意見交流をし、体の不自由な人や高齢者への理解を深め、福祉についての関心を高めた。
2. 身近なお年寄りやデイサービスなどの聞き取り調査で、高齢者についての理解を深める。
3. まとめの活動では、デイサービスでの交流会を行い、バリアフリーについて学び考えたことをまとめた「私たちの理想の町マップ」を作成した。

## ④ 地域の歴史や伝統文化に関する学習：6年生総合「地域の歴史や文化を知ろう」

1. 課題設定では、地域の文化を多面的に捉えた課題を設定するためにウェビングマップを活用し、「美九里の伝統芸能～神田の獅子舞～」「地域の食文化～すいとん～」「地域の昔のおやつ～じりやき～」「今に伝わる子ども文化～保美の天神講～」を児童自らが設定した。
2. 課題追究では、体験的な活動や現地調査を実施した。例えば、「神田獅子舞保存会」に聞く会では、獅子舞を存続させるための努力について話を聞いたたり、獅子舞を見せていただいたり、教えてもらったりした。



① の写真（まちたんけん）



② の写真（高山社跡見学）



③ の写真（車椅子体験）



④ の写真（獅子舞保存会に聞く会）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「写真・絵・図でみる よくわかる高山社」(2012 高山社を考える会) 「高山社跡」パンフレット (藤岡市教育委員会) 「ふじおかから世界へ 高山長五郎の生涯」(藤岡市教育委員会) 「絹の国ぐんまを語る」(群馬県企画部世界遺産課) 「いってみよう! 富岡製糸場と絹産業遺産群」(群馬県企画部世界遺産課) 「世界遺産 富岡製糸場と絹産業遺産群」(群馬県企画部世界遺産課)  その他多数
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

高山社学を柱に、3～6年生の総合的な学習の時間にESDの学習を行っている。課題解決的な学習を児童主体で、体験活動や現地調査などを行う中で進められるように年間指導計画を整備した。授業研究会や授業公開による研究を通して、指導の工夫改善に努めた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年間指導計画を作成。指導案や指導計画を電子データや文書で保存し、次年度へ引き継ぐ。指導資料や参考資料を教室の図書コーナーや図書室の資料コーナーで保管。校内研修で、全校体制で指導計画を作成する。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校教育アンケート（保護者・児童・教師）において、ESDの活動によって育みたいとした「思いやりのある子」「よく考える子」の育成の項目は、いずれも高い評価を得ている。また、本校の総合的な学習の時間の取り組みを他校に授業公開し、授業研究会で様々な意見をいただいた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

高山社学の取り組みの成果物(児童作成の高山社リーフレット)を市の関連施設に配布し、展示してもらうこととなった。自らの取り組みが評価されたことで、児童の達成感や学習の意欲が高まった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

4年生「高山社学」の学習における高山社情報館との連携  
(外部講師や教材開発の協力等)

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールとしての交流は特に行っていないが、市内の小中学校が全てユネスコスクールであるため、中学校区の小中学校とは学校行事等での交流を行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

高山社学を中心とした地域についての学習を児童主体で行い意見交流や協働的な体験活動・作品製作を通して、地域の歴史・伝統文化・文化財・自然・産業などに対する関心が高まり、郷土について誇りや愛着を持つようになった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も高山社学を柱として地域について学ぶ課題解決学習を行っていく。学年毎に「地域の特色」「高山社」「地域の福祉」「地域の歴史・伝統文化」とテーマを設けて、児童自らが課題を設定し、体験的な活動を通して主体的に課題追究の活動を行い、他者との意見交流の重ねる中で作品を製作していく学習過程を計画する。

そして、この学習を通して、児童の「体系的な思考力」「情報収集・分析能力」「コミュニケーション能力」を育成し、校区の自然や生活について、地域の人や物と関わり合いながら調べ、まとめ、発信する活動を通して、ふるさと「みくり」の良さを再発見させ、地域への愛着と地域を大切にすることを育むようにする。